

### 1. 開催日時・出席者等

○日時：令和元年6月7日(金)15:30～16:30

○場所：中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitchテーマ：日本の強みを活かした、AIチップ・エッジコンピューティングが切り拓く未来

○招へい者：山本達夫(やまもと たつお)デジタルメディアプロフェッショナル C.E.O.

○出席者：平井国務大臣、左藤副大臣、幸田内閣府審議官、三輪政府CIO(IT)、高田局長(宇宙)、新田参事官(科技)、池田企画官(科技)、柴崎参事官(IT)、八山参事官(IT)、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

### 2. 山本氏からの説明

○半導体業界について、近年落ち込んでいるが、これから人工知能(AI)、IoT、5Gなどを処理するためのコンピューティング、さらにエッジコンピューティングを必要とするデータセンター、自動車業界、産業機器の分野の成長が牽引していくと考えられる。

○ムーアの法則と呼ばれる、半導体のプロセスと時間を説明したものがあるが、2016年を境にしてプロセスの頭打ちになってきた。半導体の開発費も膨れ上がり、今ではハードに合わせてソフトを作る時代から、AIを処理するドメイン特化型半導体へ移行してきている。

○日本の半導体業界を見ると、世界シェアは現在7パーセント程度であり、成長市場であるサーバー、モビリティ、5Gなどの分野では存在感があまりない。今まではAI処理はネットワークを介してクラウドで推論を行っていたが、これからは推論をエッジ側で行うエッジAIが主流となってくる。

○チップの分野で日本として強みを活かせる市場として、工場の自動化、医療、農業の自動化、ラストワンマイルでのモビリティなど、日本が直面している社会問題に関してドメイン特化型半導体で貢献できると考えられる。

○当社は世界有数のGPU IPベンダーとして実績があり、アルゴリズムからモジュールまで一貫通貫で開発を行い、ハードウェアを念頭に入れたアルゴリズムの開発、ソフトウェア開発とその際帰化を行っている。また当社は積極的に海外から優秀な人材の採用をしている。

○政府の科学技術政策に期待することとして、人材流動性を高める施策があげられる。アメリカなどでは特にベンチャー企業を担う人材は流動性によって支えられているところがある。また海外人材、留学生などを受け入れていく必要があると思う。

### 3. 質疑応答・議論

○青少年・子ども達を対象としたAIスペシャリスト育成について、例えば海外の日本が好きなエンジニアを招聘して、英語で子ども達に教育をするようなプログラムをしてもいいのではないかという議論があった。

○日本が直面している社会課題をAIによって解決するとあるが具体的にどのようにしていくべきかという意見に対して、メディカル、ロボティクス、ヘルスケアの分野に特化したAIが進展していけば課題解決につながるのではないかとの議論となった。

○AIチップの拠点形成について、産総研、東大などが連携をしながらチップの設計拠点ができてきているとの意見もあがった。

○自動走行に関して、5Gの通信環境がいくら整備されたとしても、コアな処理についてはエッジ側でリアルタイムに処理をしていく必要があるのではという意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)